～ご参加の皆さまへお願い～

- 市内探訪では、集合から解散まで統一行動となっています。
- 歩行中は一列又は二列で歩き、道路横断時などは交通安全に十分気を付けてください。
- 急坂、石段などありますので、足元に注意してください。
- 昆虫や植物などは採集しないで、カメラやスケッチに収めてください。
- 地元の方々のご理解・ご協力をいただき、神社や寺院などに伺いますので、失礼のないように注意してください。
- 弁当や菓子などのゴミは、各自お持ち帰りください。
- 記録写真を撮る場合がありますので、ご了承ください。
- アンケートを取る場合がありますので、その時はご協力ください。
- 新型コロナウィルス感染拡大防止のため、マスク着用・検温等にご協力ください。

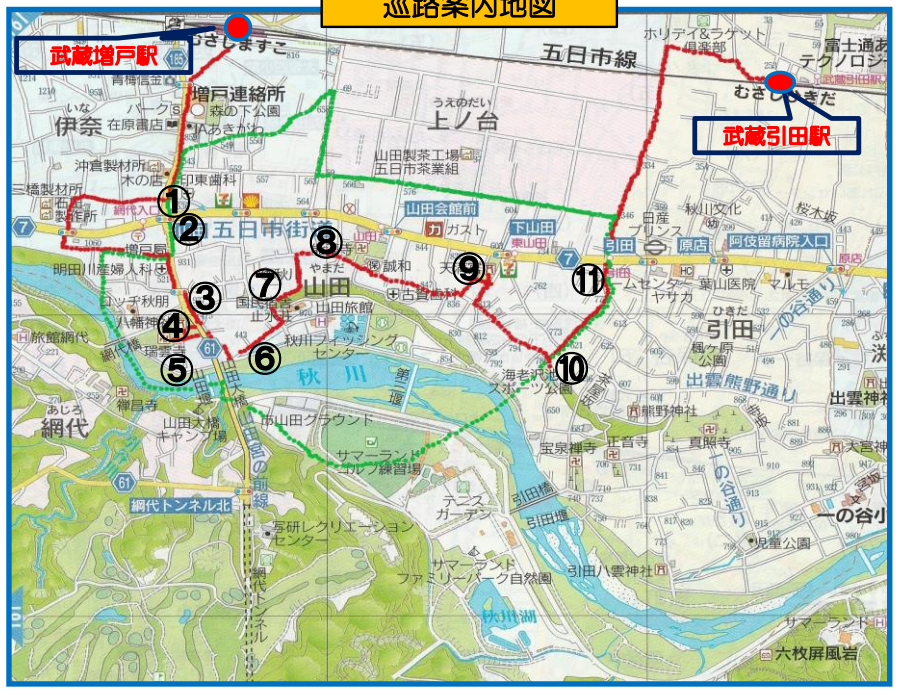
私たち市民解説員は、ふるさとあきる野を愛し、
地域の自然・歴史・文化の再発見に努めるとともに、
これらを市民の皆さまや市外から訪れる方々に紹介し、
まちづくりと生涯学習の推進を図る学習ボランティアです。
あきる野市は、自然や遺跡、文化財の宝庫です。
美しく恵まれた環境のもとで、地域の皆さまと一緒に
学びあい、活動できることを嬉しく思っています。
今後ともよろしくお願いいたします。

企画・実施　担当市民解説員
住友恒正・柗本規久子・小熊孝彦

市民解説員が案内する市内探訪

「あきる野市ふるさとの道の風景」
～新緑の山田地区を歩く～

巡路案内地図



探訪巡路

JR武蔵増戸駅前集合（9：00）☆⇒①旧五日市街道道標⇒
②山田交差点⇒③伽耶の木坂☆⇒④八幡神社⇒⑤瑞雲寺⇒
⑥秋川河畔⇒⑦大坂⇒⑧能満寺⇒⑨山田天神社☆⇒⑩旧海老沢邸⇒
⑪神送り場⇒JR武蔵引田駅前着・アンケート回収・解散
（☆印はトイレ）

令和４年５月１８日
あきる野市　中央公民館

探訪場所の簡単な解説

参考資料：五日市町史・無漏西游・山田のむかしを訪ねて・他

◎　コースの紹介

瑞雲寺の開基である瑞雲尼が山田の地名発祥の基と伝えられ、普段、何気なく通っている道路が武蔵野の幾筋かある鎌倉道の中で、一番西寄りの道であることなど知っているようで知らない事柄が多々。「山田村」の名称が記載されている最古のものは天正２年（1574）の古文書（讃岐役所当番衆覚書）で秋川流域の諸村と共に出てくる。それから明治までの長い間「山田村」の名称は変わることなく存続してきた。明治に入り、秋川流域の村々は神奈川県や韮山県、品川県などに編入を繰返しながら明治初期の混乱期を経てきた。その後合併などで山田村は増戸村、五日市町、現あきる野市と変遷してきたが「山田」の名称は今も続いている。山田の昔を知る上で、瑞雲寺・能満寺・八幡神社・山田天神社の二寺二社、山田の人々の生活に切り離せない秋川や山田の中心であったろう中道を散策しながら「山田の昔」を訪ねたい。

右の画は
新編武蔵風土記稿所載の
瑞雲寺

右の画は
「山田のむかしを訪ねて」
所載の
瑞雲尼主従

①　旧五日市街道道標

天正１８年（1590）徳川家康が江戸に入国後、伊奈の石工たちは江戸城築城工事に動員され、秋川谷と江戸を結ぶ道が次第に発生し、「伊奈みち」と呼ばれるようになった。この名の由来は、多くの石工たちがこの道を往き来し、それに触発され、諸商人の往来も始まり、日用物資を取引する市が栄えてきた伊奈宿が秋川谷の代表集落であたからである。
承応年間（1652～）頃から五日市宿が発展してきて、しだいに「五日市街道」と呼ばれるようになった。当初の道筋は小川の渡しであったが、その後、秋留原から牛浜の渡しへと変わった。「鍵の手」といって敵から集落を守るため道路が直角に曲がっているのも興味深い。

②　山田交差点

現在の五日市街道は車が中心で幅員22mの片側二車線に両側に歩道付ですが、大正時代は3.6m、昭和16年でも8.5mだった。１８５号線との交差点が山田交差点である。

左の写真は
山田大橋際の道標

右の写真は
旧五日市街道の道標

④　八幡神社

祭神は「応神天皇」。創立年不祥とあるが社伝によれば文和年間（1352～56）に足利尊氏の臣、景山大炊介貞兼が建立したもので、瑞雲寺が別当であった。縄文時代の石棒や丸石神も歴史を物語る。

写真は
神社の鳥居と石棒

⑤　白華山　瑞雲寺

臨済宗建長寺派に属し、ご本尊は阿弥陀如来。寺伝によれば文和年間（1352～56）前後に足利基氏の母（或いは伯母ともいう）瑞雲寺殿貴渓忻大姉が開基、大光禅師復庵宗己が開山と伝わる。市の有形文化財として、足利尊氏の古い束帯座像・「南無阿弥陀仏」名号の板碑がある。他に足利尊氏・基氏・氏満の古い位牌が残っている。
写真は瑞雲寺の本堂と観音堂

⑥　秋川河畔

江戸時代の山田村は、農業を中心に、家では蚕を育て、山では燃料・肥料を取りに行き、秋川では漁撈や筏流し、織物などが生活の一部だった。
下の画は「山田のむかしを訪ねて」
所載の黒八丈の染場の風景

⑦　大坂

中分の加賀屋というおそばやさんの南側を通る坂道

③　伽耶の木坂

山田大橋たもとを左側に下って川に出る道。昔の鎌倉道で800年以上前から利用されていた歴史ある道で下り口の民家に伽耶の木があったことから「伽耶の木坂」と呼ばれるようになったと言われる。
写真は伽耶の木坂と山田大橋

⑧　鏡意山　能満寺

寺伝によれば、創立応永五年（1398）で開山は心源希徹、開基は瑞雲寺殿喜渓忻大姉で古くは秋川を隔てた向かい側にあって元亀三年（1572）に現在地で再建されたと伝える。ご本尊は虚空蔵菩薩。見どころとしては、「創建六百年記念事業」で再建された本堂の概観と達磨像・心源希徹禅師像の他、境内に設置された数々の仏像や花も見事。

○　天神山　常照寺　跡

能満寺３世・亀齢鑑和尚退去の庵を天福山常照寺として、同和尚を開祖として創立。
江戸時代中期頃まで、隠居寺であった。
明治初年、能満寺に合寺。
２６世和尚が、観音菩薩立像を建立。
下の写真は能満寺本堂

右の写真は常照寺跡の
尼僧の威徳を偲ぶ
観音菩薩立像

⑨　山田天神社

俗社名を山田の天神様と親しみ大切にされてきました。祭神は菅原道真、社伝により貞治・応安（1362～75）のころ足利基氏の母瑞雲尼の創立と言い、社号は古くは天満宮（天満大自在天神）と称した。村内能満寺持ちの常照寺が別当であった。
社宝は「白馬御神像」と言われる。境内の「矢羽根積」に囲まれて鎮座する。
写真は天神社の鳥居と矢羽根積

⑩　海老原峰章(あきる野市ゆかりの人)

「医は、人命を救う博愛の道である」という。そうした医療に携わる医師のことを江戸時代から仁医と呼んだ。そんな仁医が引田にいた、海老沢峰章（1851～1918）という。医術の高さや貧しい人々を救済する姿勢は広く知られ、患者は常に群集したと言われる。宝泉寺・えびさわ道などもご参考に偲んで頂きたい。

写真は宝仙寺の
海老沢峰章の碑
大正９年建立

えびさわみちと道導
明治25年建立

⑪　神送り場

何だろう？（不思議な神が大事に管理されている）
昔、ここで10月１日は迎え神、12月１日は送り神の行事を行ったとか、疫病がはやると村人が集まり疫病を村の外へ送り出したとも言われる。
山田と引田の境界にあるのも不思議。なんと昔の人は村外れの道を利用したとのことも不思議である。
写真は神送り場